

2019年度卒業生を対象とした学修行動調査結果の概要

《調査の概要》

- 1 実施目的 本学学生を対象に毎年実施している「学修行動及びキャンパスライフ調査」の中から、2019年度卒業見込みの学生*に係る、課程全体を通じた成長実感、本学の教育や学生生活に対する満足度などについて、集計・分析を行い、教育改革等に反映させるため。

※2020年3月に卒業見込みの大学4年生、短大2年生

- 2 実施日 2019年12月
- 3 実施形態 W e bまたは用紙での記名式回答
- 4 回答者数・回収率

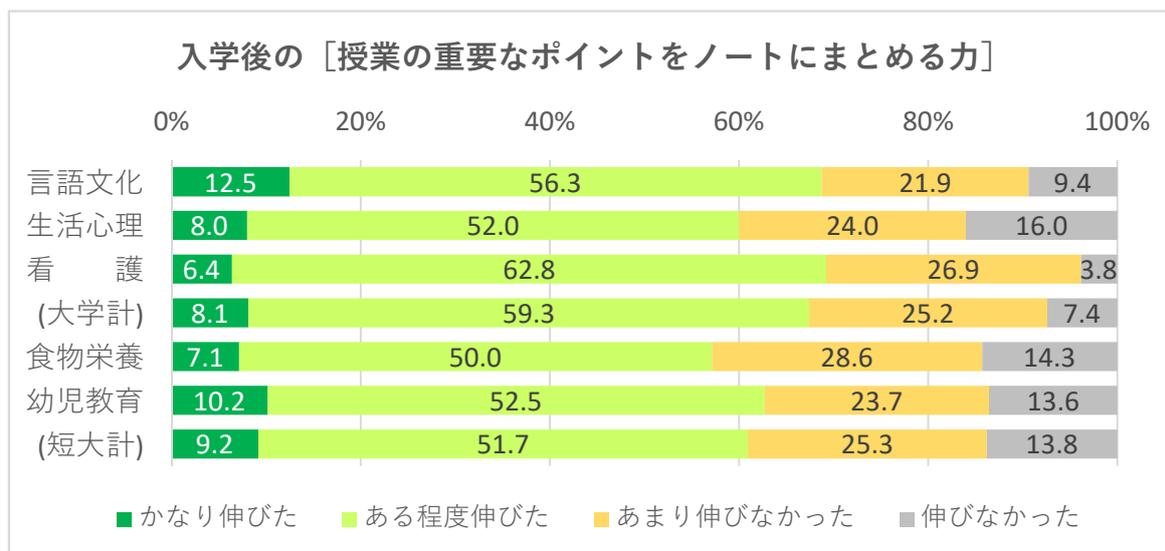
学 科 名	学年	回答数	学生数	回 収 率	備 考
言 語 文 化 学 科	4 年	33	39	84.6%	
生 活 心 理 学 科		25	33	75.8%	
地 域 マ ネ ジ ム ン ト 学 科		—	—	—	
看 護 学 科		80	88	90.9%	
大 学 計		138	160	86.3%	
食 物 栄 養 学 科	2 年	29	38	76.3%	
幼 児 教 育 学 科		60	64	93.8%	
短 大 計		89	102	87.3%	
合 計		227	262	86.6%	

1 学習習熟度に関する入学後の状況

入学後の成長実感について、16項目について調査を行った。

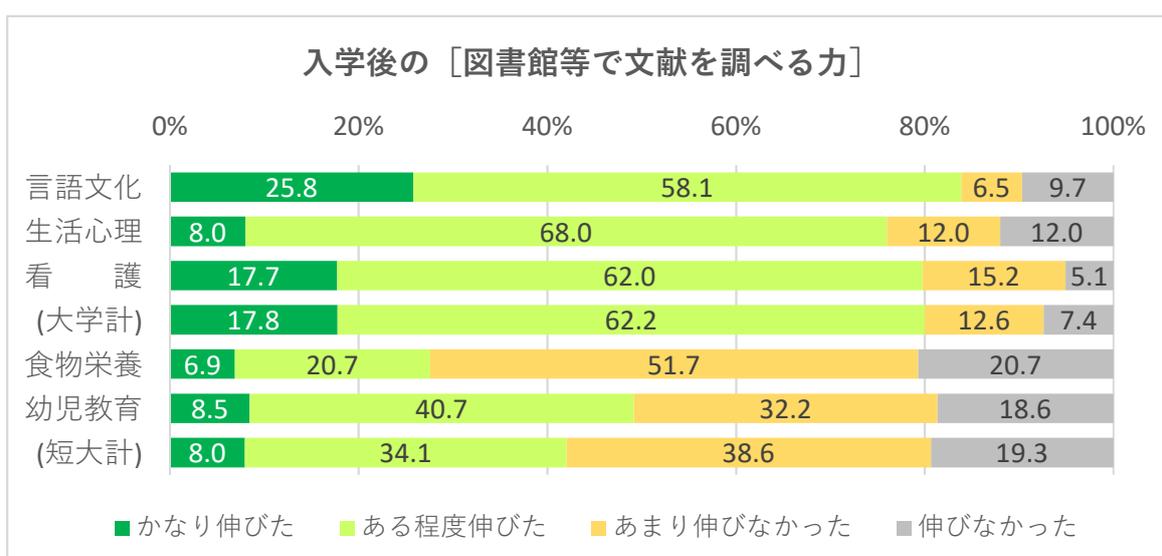
(1)授業の重要なポイントをノートにまとめる力

「かなり伸びた」と「ある程度伸びた」を合わせて（以下『伸びた』という。）大学、短大とも60%を超え、各学科では、大きな差はなかった。



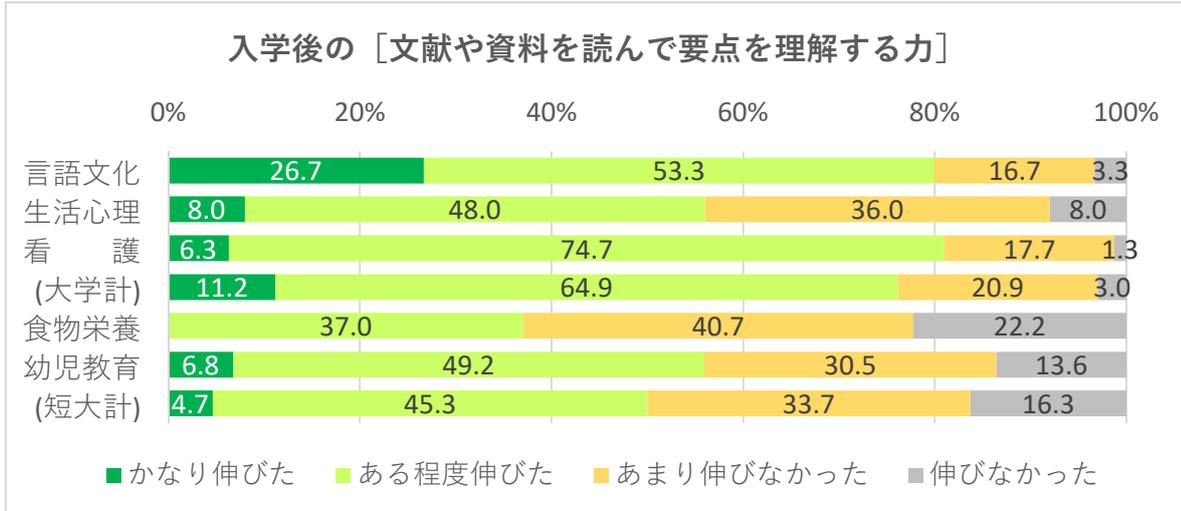
(2)図書館等で文献を調べる力

『伸びた』は、大学では80%を超えたが、短大では42%にとどまった。



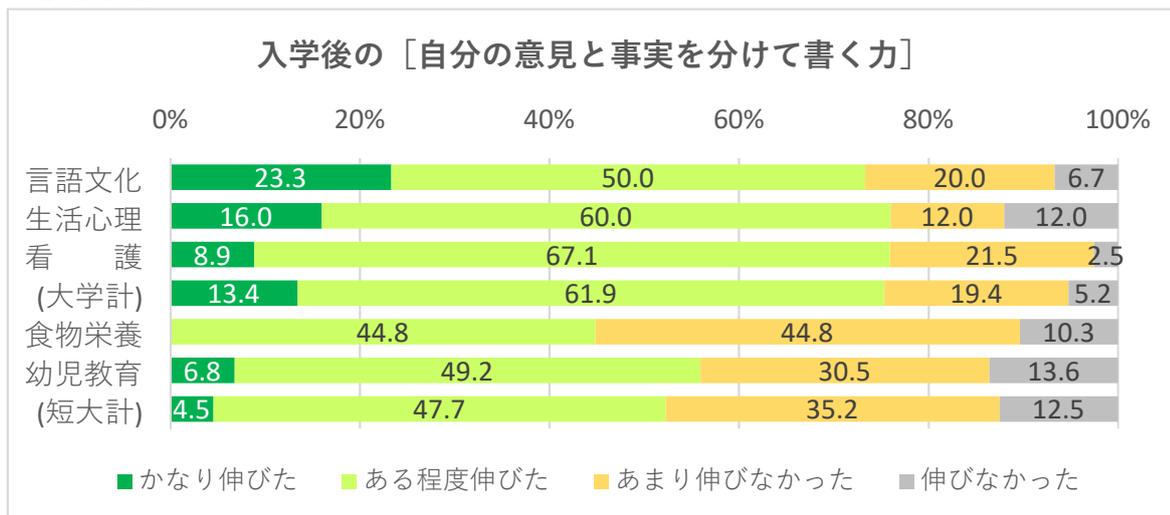
(3)文献や資料を読んで要点を理解する力

『伸びた』は、看護学科で81%、言語文化学科では80%と高かった。



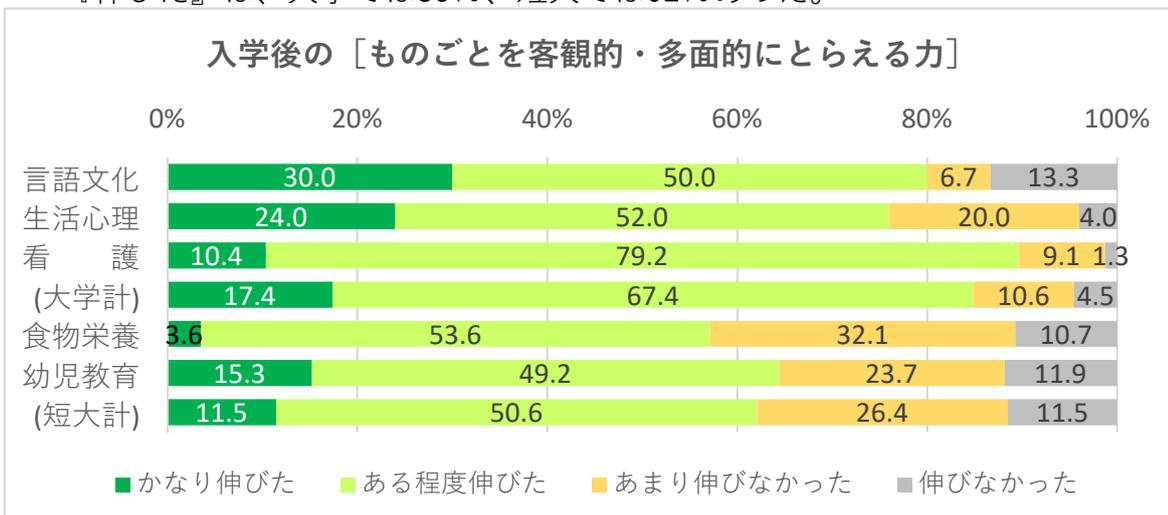
(4)自分の意見と事実を分けて書く力

『伸びた』は、大学では75%あり、各学科で大きな差はなかった。短大は52%であった



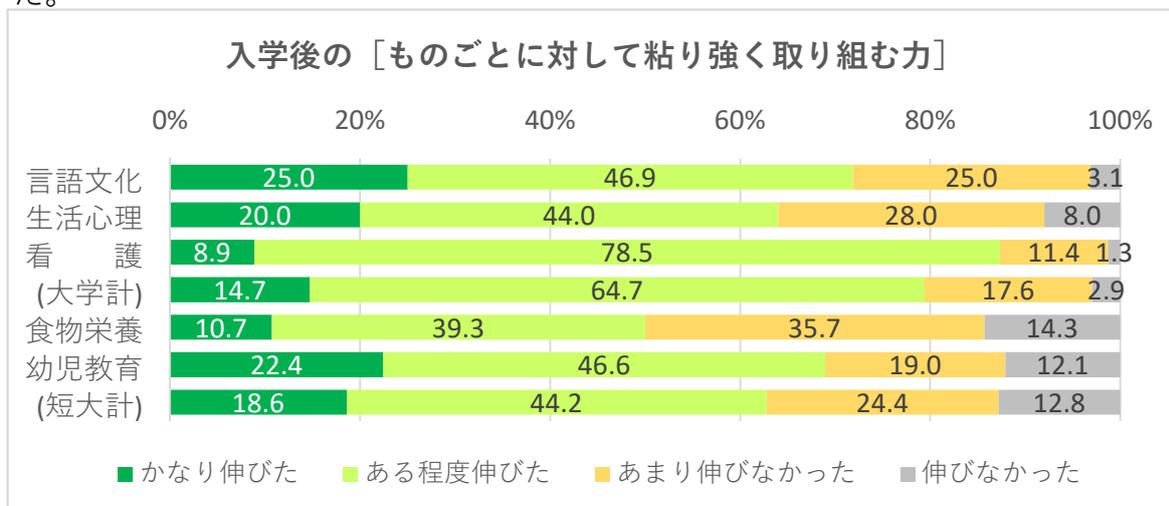
(5)ものごとを客観的・多面的にとらえる力

『伸びた』は、大学では85%、短大では62%あった。



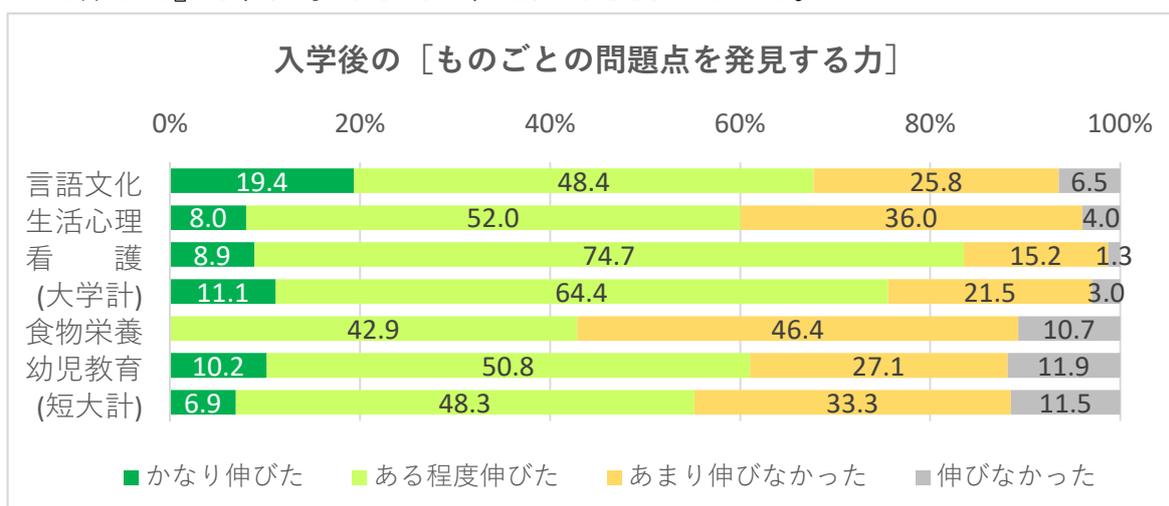
(6)ものごとに対して粘り強く取り組む力

『伸びた』は、大学では79%、短大では63%あり、看護学科では87%と高かった。



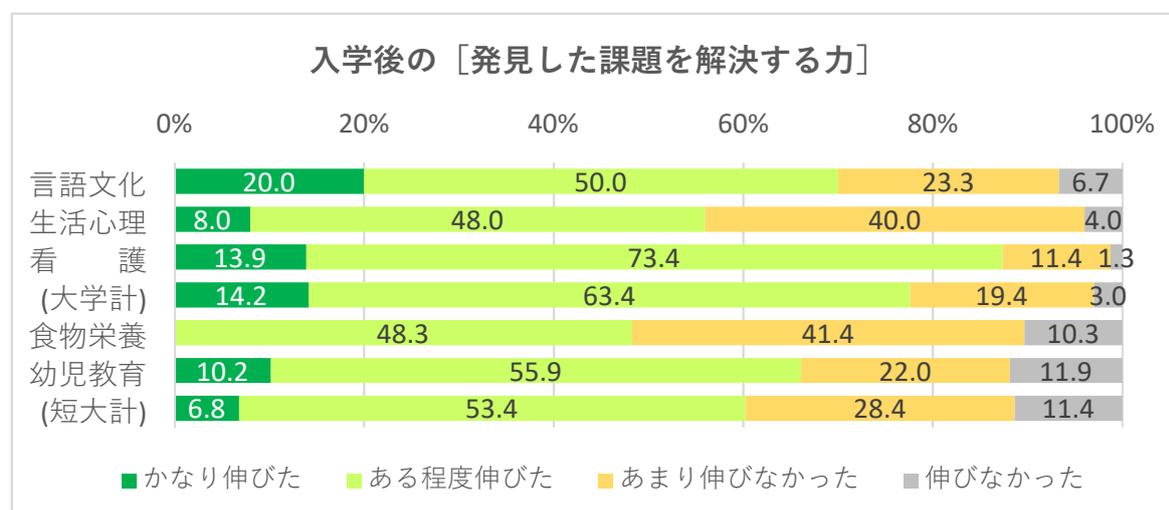
(7)ものごとの問題点を発見する力

『伸びた』は、大学では76%、短大では55%あった。



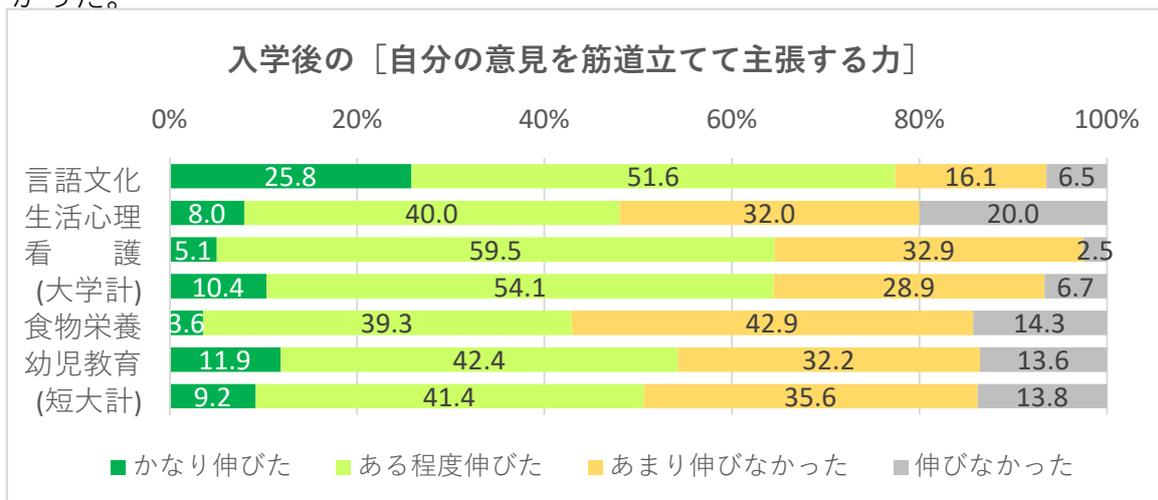
(8)発見した課題を解決する力

『伸びた』は、大学では78%、短大では60%あり、看護学科では87%と高かった。



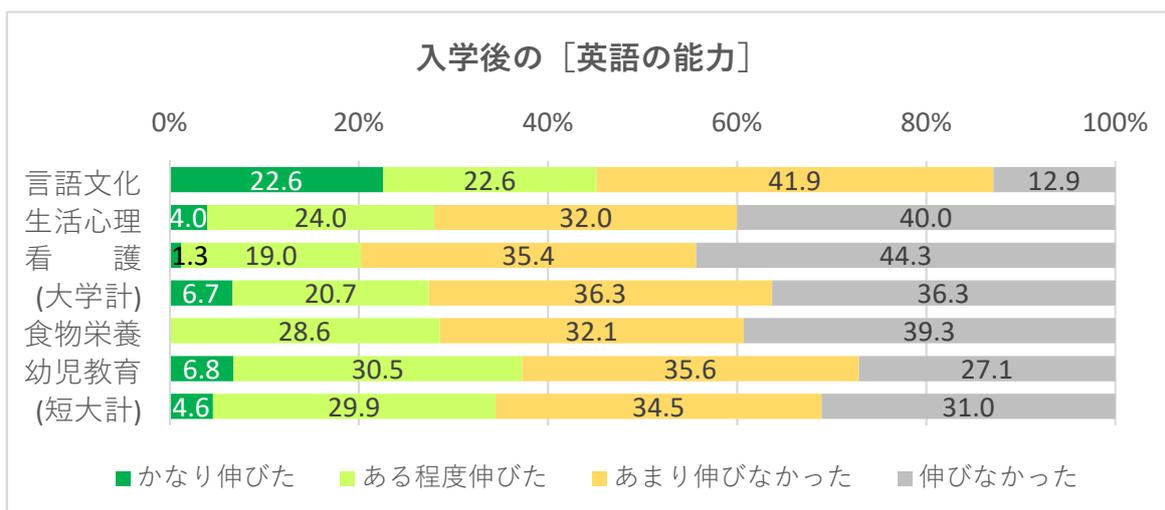
(9)自分の意見を筋道立てて主張する力

『伸びた』は、大学では65%、短大では51%あり、言語文化学科が77%で高かった。



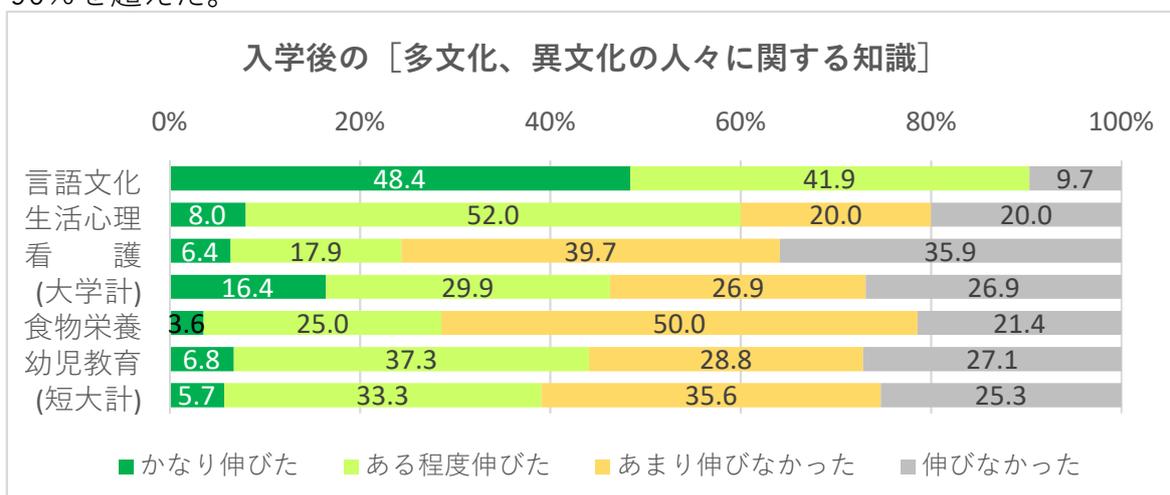
(10)英語の能力

『伸びた』は、大学では27%、短大では35%にとどまった。言語文化学科では「かなり伸びた」が20%を超えた。



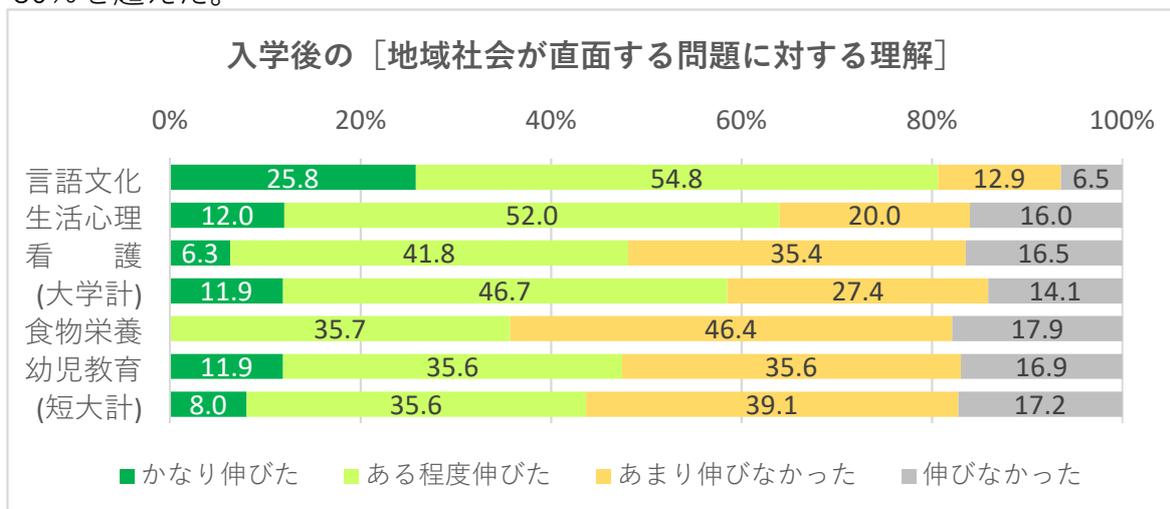
(11)多文化、異文化の人々に関する知識

『伸びた』は、大学では46%、短大では39%であったが、言語文化学科では、90%を超えた。



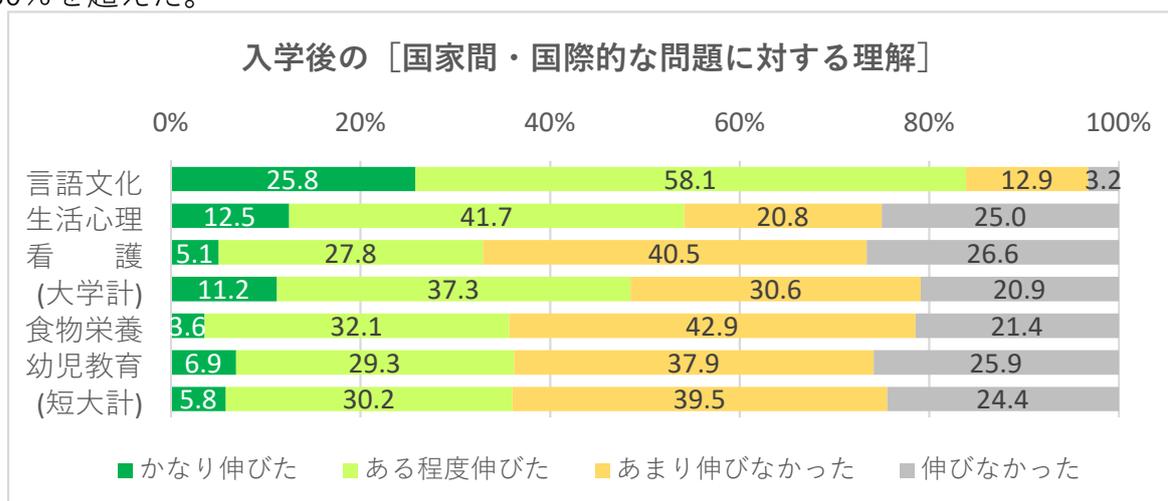
(12) 地域社会が直面する問題に対する理解

『伸びた』は、大学では59%、短大では44%であったが、言語文化学科では、80%を超えた。



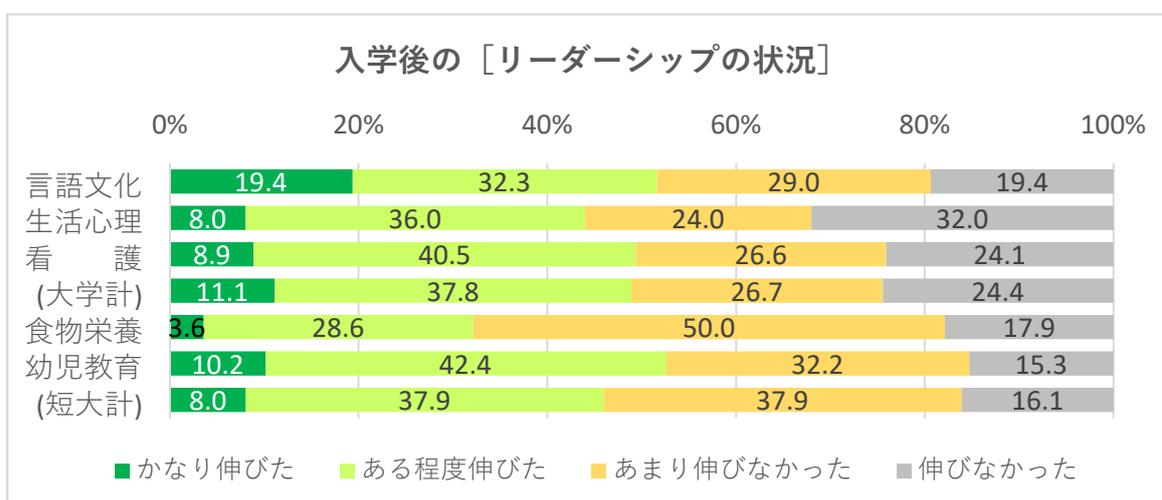
(13) 国家間・国際的な問題に対する理解

『伸びた』は、大学では49%、短大では36%であったが、言語文化学科では、80%を超えた。



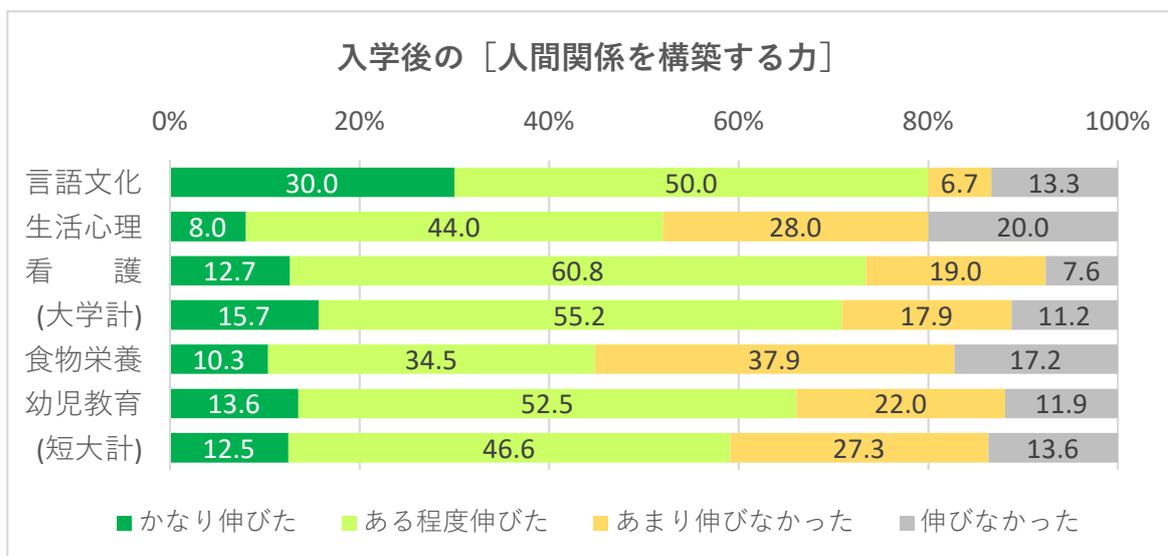
(14) リーダーシップの状況

『伸びた』は、大学では49%、短大では46%あった。



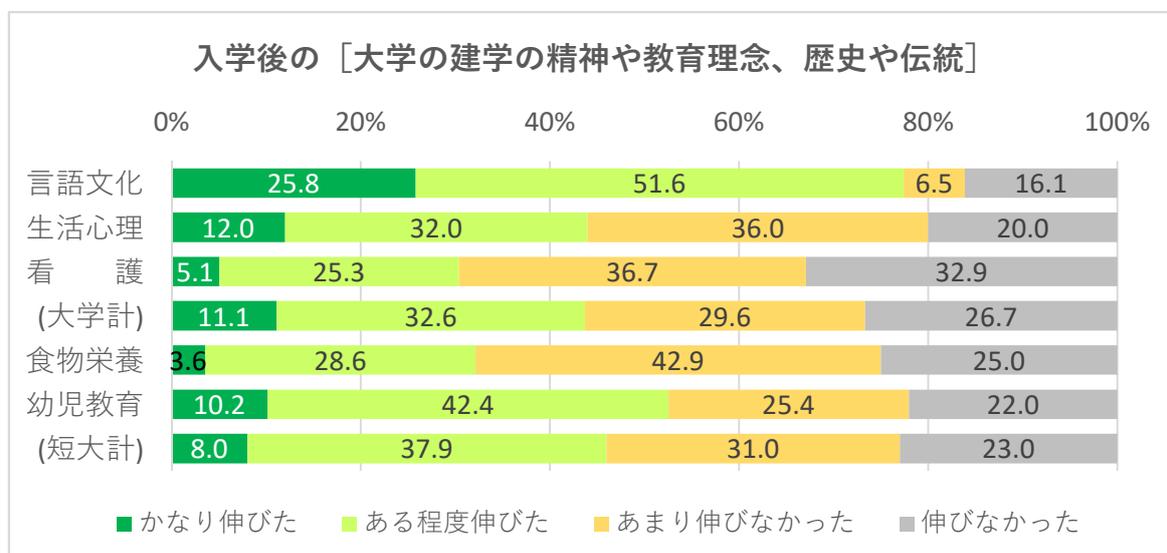
(15)人間関係を構築する力

『伸びた』は、大学で71%、短大で59%あったが、食物栄養学科、生活心理学科で低かった。



(16)大学の見学の精神や教育理念、歴史や伝統

『伸びた』は、大学で44%、短大で46%あったが、言語文化学科では、77%と高かった。



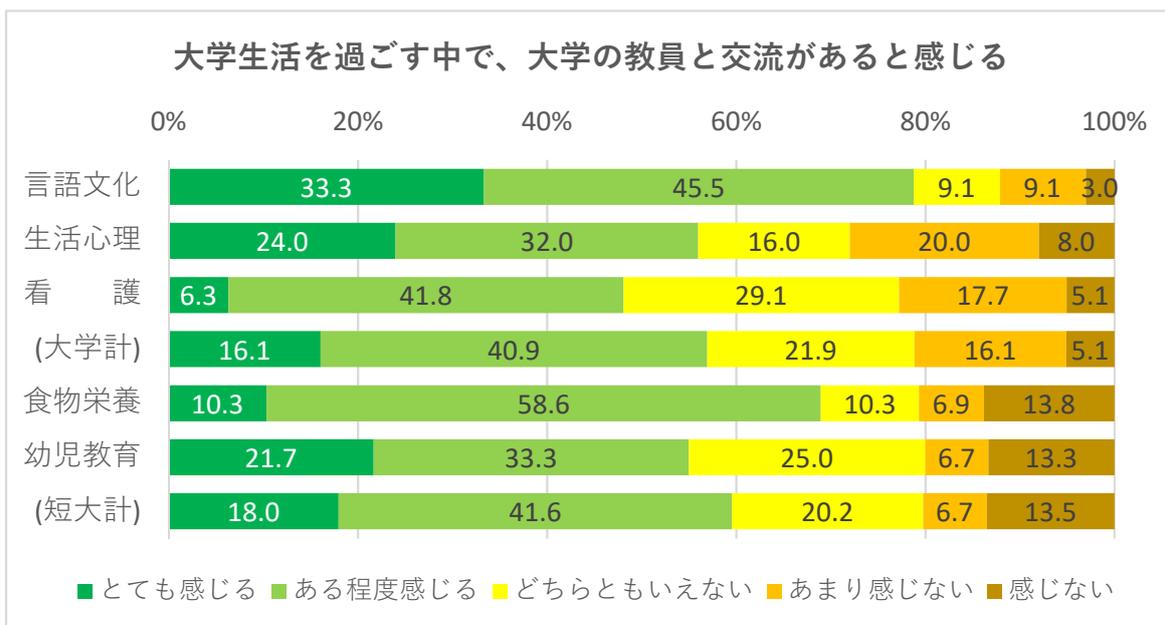
2 本学に対する評価や将来に関すること

大学生活を過ごす中で38歳感や満足度、卒業後の進路等について調査した。

(1) 大学生活を過ごす中での実感

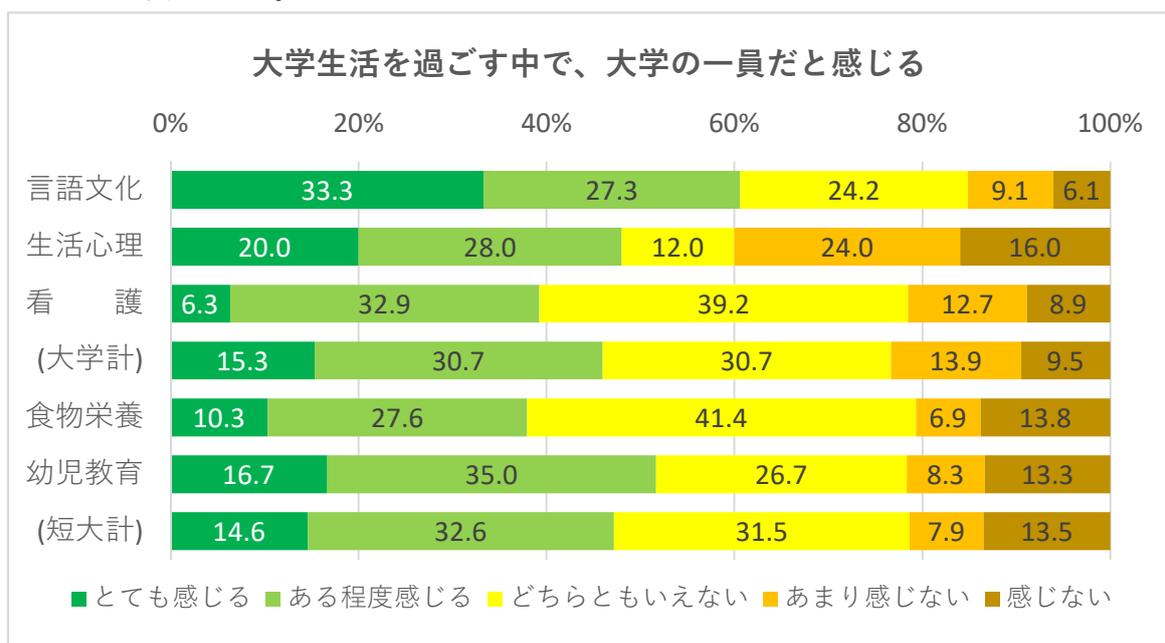
① 大学の教員と交流があると感じる

「とても感じる」と「ある程度感じる」を合わせて（以下『感じる』という。）、言語文化学科では79%、食物栄養学科で69%と高かった。



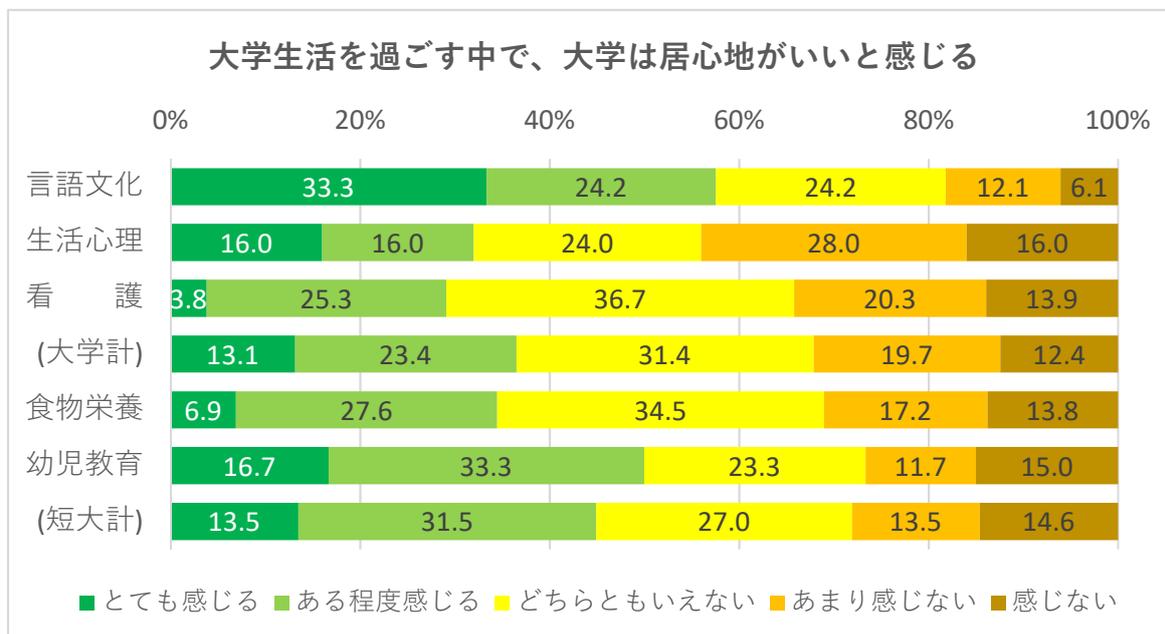
② 大学の一員だと感じる

『感じる』は、大学で46%、短大で47%あったが、言語文化学科では、61%と高かった。



③居心地がいいと感じる

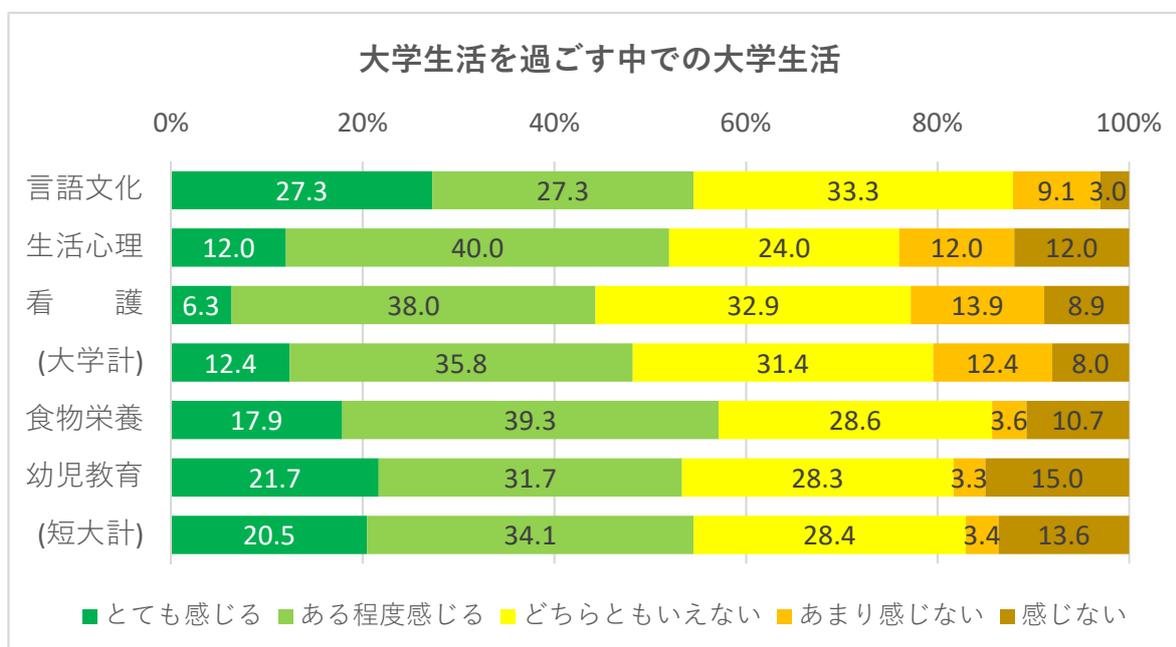
『感じる』は、大学で37%、短大で45%あったが、言語文化学科では、58%と高かった。



(2)大学生活を過ごす中での満足度

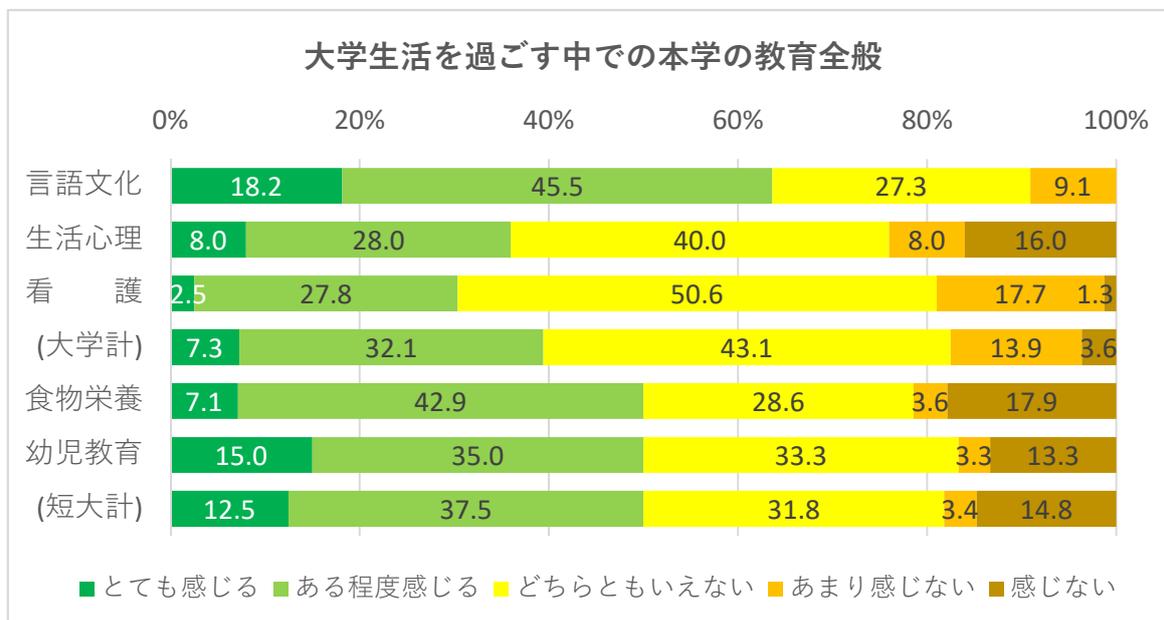
①大学生活について

『感じる』は、大学で48%、短大で55%あった。



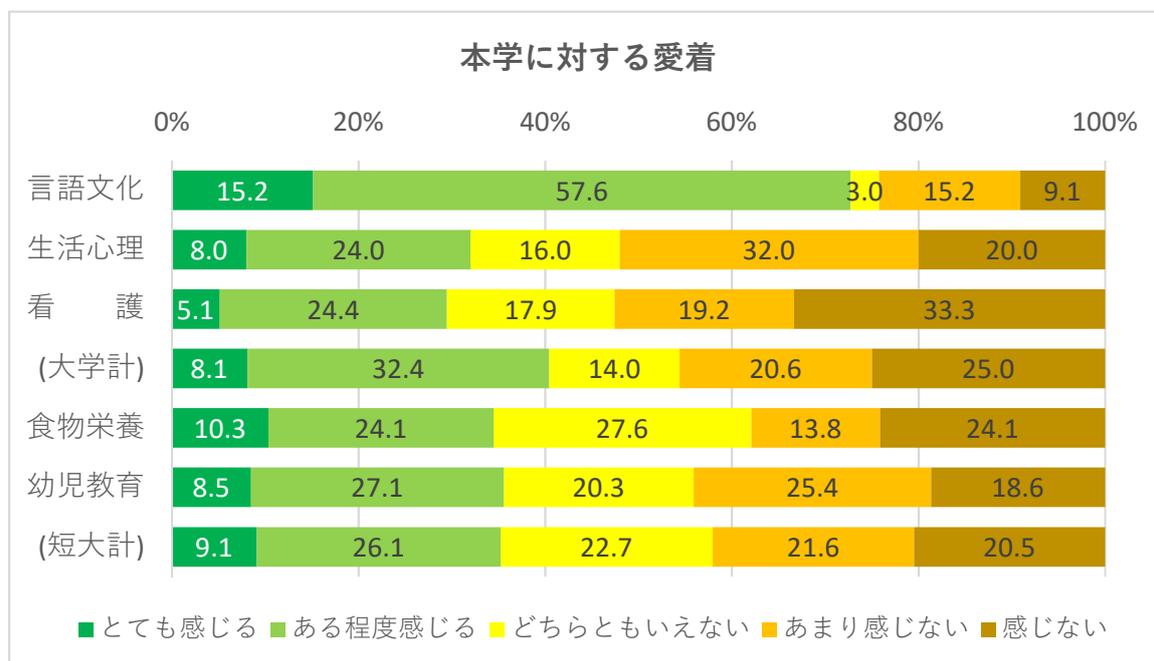
②本学の教育全般について

『感じる』は、大学で39%、短大で50%であったが、言語文化学科では、64%と高かった。



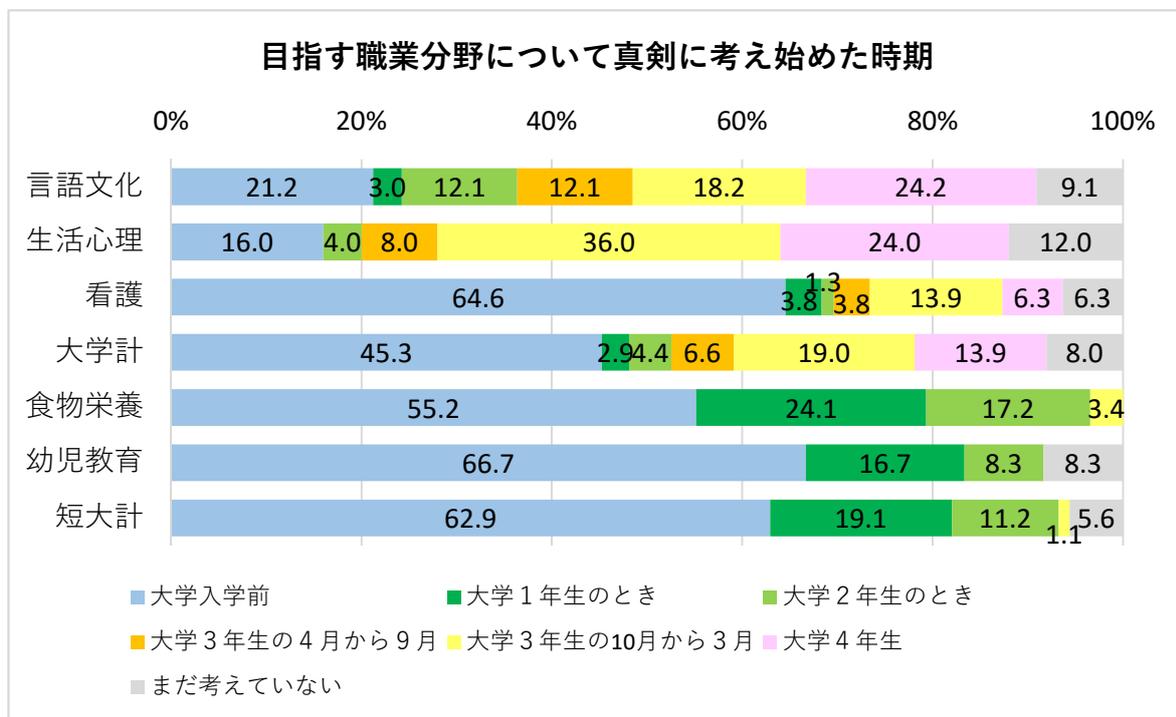
(3)本学に対する愛着

言語文化学科で、73%と高かった。



(4) 目指す職業分野について真剣に考え始めた時期

資格取得をめざす看護学科、食物栄養学科、幼児教育学科では、「大学入学前」が一番多かった。生活心理学科では、「大学3年生の10月から3月」が一番多かった。



(5) 卒業後の進路

資格取得をめざす看護学科、食物栄養学科、幼児教育学科では、「取得した資格で専門職に就く」が一番多かった。生活心理学科、言語文化学科では、「民間企業に就職する」が一番多かった。

